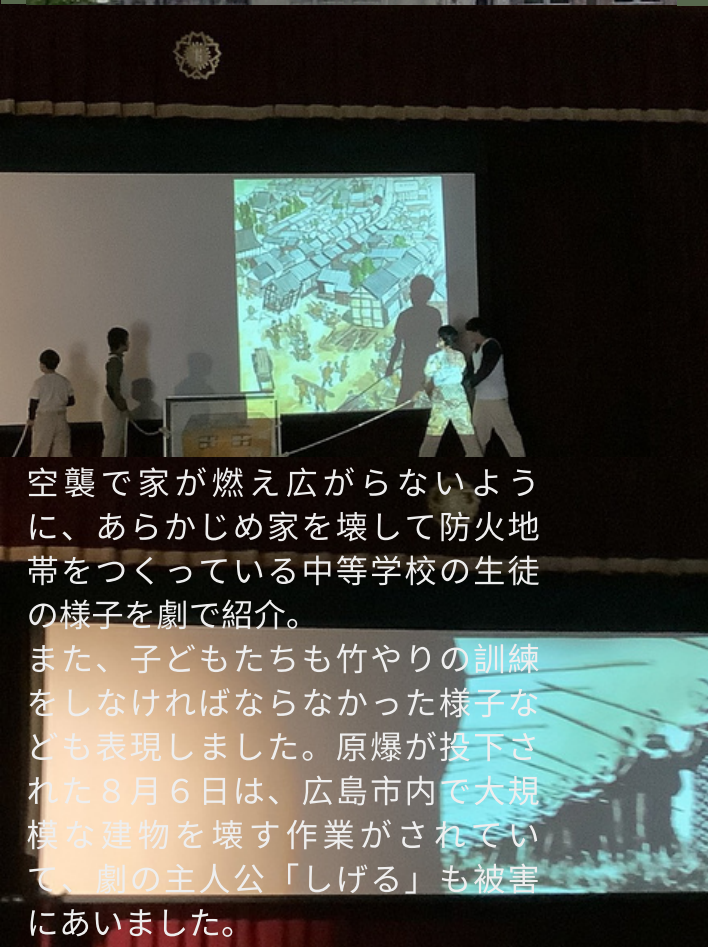


今月のほんじょう N021



空襲で家が燃え広がらないように、あらかじめ家を壊して防火地帯をつくっている中等学校の生徒の様子を劇で紹介。

また、子どもたちも竹やりの訓練をしなければならなかった様子なども表現しました。原爆が投下された8月6日は、広島市内で大規模な建物を壊す作業がされていて、劇の主人公「しげる」も被害にあいました。



6年生平和劇 真っ黒なお弁当



原爆が投下された後、作業に出ていた「しげる」を探しに行くお母さんの場面です。たくさんの人がなくなり、大けがをしている中で、お母さんは「しげる」に持たせた真っ黒になったお弁当を見つけます。そのときのお母さんの悲しみや苦しみが、劇を通して観ている人に強く伝わってきました。1年から4年生の子どもたちも真剣な眼差しで舞台に注目し、劇が訴えかける平和の大切さ、命の尊さを一人一人が深く考えました。



劇の後には、修学旅行や総合的な学習の時間等に調べた原子爆弾の怖さや平和の大切さを発表しました。6年生の子どもたちの真剣な表情から、平和な世界を創っていきたい、世界から核兵器をなくしていきたいという強い思いが伝わってきました。

